



物語文 一つの花 ②



名前

月 日

次の文章を読んで、後の問いに答えましょう。

それからまもなく、あまりじょうぶでないゆみ子のお父さんも、戦争に行かなければならない日がやって来ました。

お父さんが戦争に行く日、ゆみ子は、お母さんにおぶわれて、遠い汽車の駅まで送っていきました。頭には、お母さんの作ってくれた、わた入れの防空頭巾をかぶっていきました。

お母さんのかたにかかっているかばんには、包帯、お薬、配給のきっぷ、そして、大事なお米で作ったおにぎりが入っていました。

ゆみ子は、おにぎりが入っているのを、ちやあんと知っていましたので、「一つだけちょうだい。おじぎり、一つだけちょうだい。」

と言って、駅に着くまでにみんな食べてしまいました。お母さんは、戦争に行くお父さんに、ゆみ子の泣き顔を見せたくなかったのでしょうか。

① 文は、どんな日のことを書いていますか。

() が () に行く日のこと。

② ゆみ子はお母さんにおぶわれて、どうしましたか。

汽車の駅まで () 。

③ ゆみ子は、何をかぶっていきましたか。

() の ()

④ お母さんのかばんには、何が入っていましたか。

() () () () () ()

⑤ お母さんは、だれのために「大事なお米で」おにぎりを作っていましたか。次の中から選んで、○をつけましょう。

() 戦争に行くお父さん
() おなかをすかせたゆみ子

⑥ なぜ、お母さんはゆみ子におにぎりを全部食べさせたのでしょうか。それがわかる文に線を引きましょう。

⑦ 戦争中であることがよくわかる言葉を、次の中から二つ選び、○をつけましょう。

() 防空頭巾 () かばん
() 配給のきっぷ () 汽車の駅